

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回 枚方市総合計画審議会 第2部会
開 催 日 時	平成26年8月28日（木） 18時55分から20時00分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第2委員会室
出 席 者	部会長：吉川委員 副部会長：後閑委員 委員：伊東委員、榮野委員、角野委員、嶋田委員、高井委員、谷本委員、 富岡委員、橋本委員
欠 席 者	—
案 件 名	1. 部会長及び副部会長の選出について 2. 会議録等の公開について 3. 第5次総合計画基本構想（素案）について
提出された資料等の 名 称	第5次枚方市総合計画基本構想（素案）について
決 定 事 項	1. 部会長に吉川委員を、副部会長に後閑委員を互選により選出した。 2. 会議の公開のルールや会議録の対応については、審議会と同様の取り扱いとし、傍聴を認め、会議録は各委員の確認を経て、部会長の承認を得た上で確定し公表することとした。 3. 第5次総合計画基本構想（素案）について、「めざすまちの姿」や「まちづくりの進め方」等の項目を中心に、引き続き、次回の部会で議論していくこととした。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	1人
所 管 部 署 (事 務 局)	政策企画部 企画課

審 議 内 容	
事務局	<p>それではただ今より、第1回枚方市総合計画審議会第2部会を開催させていただきたいと思ひます。部会長と副部会長を選出させていただきますまで、進行をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>まず、本日の出席委員は10名でございますが、枚方市附属機関条例に基づき、この部会が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>それでは早速でございますが、附属機関条例第4条第2項の規定によりまして、部会長と副部会長の選出を委員の皆さんの互選により、お願ひしたいと思ひます。委員の皆様から何かご提案があれば、ご発言をお願ひいたします。</p>
谷本委員	事務局からご推薦いただけたらと思ひますが、どうですか。
事務局	<p>ただいま、谷本委員より、事務局から推薦があればということで、ご提案をいただきました。委員の皆様いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(「異議なし」の声)</p> <p>ありがとうございます。それではご賛同いただきましたので、ご提案させていただきます。審議会の吉川副会長を部会長に、後閑委員を副部会長にお願ひしてはどうかと、事務局では考えておりますが、皆様いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(「異議なし」の声)</p> <p>ご賛同いただきましたので、吉川副会長に部会長を、後閑委員に副部会長をお願ひさせていただきますたいと思ひます。それでは、これからの進行は部会長にお願ひしたいと思ひます。部会長並びに副部会長、よろしくお願ひいたします。</p>
吉川部会長	<p>私はハードの方の都市計画系の審議会、審査会等で、枚方市で3つ会長を務めておりまして、4つ目はご勘弁をと思ひていたんですが、審議会では副会長をと。そして今度は部会長。結局は会議を主催することになりました。</p> <p>もうだいぶ時間も押しております。8時を目処に、部会を進めて参りたいと思ひます。皆さん、ご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。先ほども、審議会の方で出ておりましたが、基本的には基本構想の素案をご議論いただくわけですが、その前に、この第2部会の次第に出ております案件の2「会議録等の公開について」、ここをまず議題とさせていただきます。</p> <p>本日はすでに傍聴の方がご入室いただいているというところなんですが、今後も部会を開くということが決まっておりますので、部会を進めていくに際しまして、会議の公開のルールや会議録の対応など、審議会と同様の取り扱いとさせていただきますたいと思ひておりますが、これにつきまして、皆様のほうでご異議等ございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(「異議なし」の声)</p> <p>それでは、この部会についても審議会の傍聴と同様ということで、原則として認めることにしたいと思ひます。また会議録についても、審議会と同様に作成し、公表していくことにしたいと思ひます。</p> <p>それでは案件3でございます「第5次総合計画基本構想(素案)について」を議題とさせていただきますたいと思ひます。審議会の方で素案について事務局から説明をいただきましたが、第2部会の皆様におかれましては、資料をご覧いただいご意見、ご質問など何でも結構でございます。ご発言をいただければと思ひます。半分のボリュームになりましたので、全員の方からご意見をいただければと考えておりますので、まず順番にご意見をいただければというふうに思っております。</p> <p>申し訳ございませんが、あいうえお順で回っていただければと思ひます。</p>

伊東委員	<p>「めざすまちの姿」の「住みたい、住み続けたいと感じられるまち・枚方」というのは、これは役所の希望のように感じます。市民だから「住んでるし」というところなんですけど。人が増えたらいいかどうか、市民一人ひとりがあんまり関係ないというか、だから、どういう立場でこれを作ったらいいのかが、ぼやけているように思います。みんなで作るってものを掲げているということをおっしゃっていたんですけども、それをどういうふうにしたらいいのかが、その方向性がまだ分かってないんですけども。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>何でも結構で、ご意見をいただくわけですが、皆さんのご議論を取りまとめたいと思っておりますので、このようにホワイトボードをご用意していただいております。コンサルタントのほうが発言の内容をメモの形で記載させていただきます。ちょっと後ろの方がバタバタするかもしれませんが、ご理解いただきたいと思います。</p> <p>それでは、基本的には大きなテーマについて疑問があるというご発言と考えてよろしいでしょうか。</p>
伊東委員	<p>そもそも、みたいなところです。</p>
吉川部会長	<p>それでは引き続いて、榮野委員から。</p>
榮野委員	<p>いくつかあります。</p> <p>まず14ページ、先ほど徳久委員からもありましたが、「まちづくりの進め方」というのが4つあるんですが、「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」というのは、もう少し上位の取り組みにした方がいいのではないかとというのが私の意見です。全体の目標にするかどうかというのは、11ページの目標はまちづくりの目標なので、まちづくりを進める主体として並列で上位にくるイメージはあるかなと思います。</p> <p>14ページに戻っていただいて、残りの3つ「効率的な市政運営」、「情報発信力の強化」、「広域的な連携と地方分権の推進」のこれらは行政体としての整理なので、分けた方がいいと思います。</p> <p>関連して、もう1点なんですけど、1ページの一番最初の「計画策定の趣旨」の3項目なんですけど、少し細かいですが、今言った趣旨から言いますと、3つ目の項目が一番上に持ってくるべきではないかと思えます。上2つはどちらかというと行政の視点なので、入れ替えたほうがいいのではないかと思えます。</p> <p>7ページの「情報通信技術の発展」の「枚方市が抱える主な課題」のところで、行政体としての情報発信、開かれた行政を目指すという観点と、情報通信技術を活用するという2つの観点が混在しているので、ここは論点を分けた方がより分かりやすくなるんじゃないかなと思います。</p> <p>それから、2ページ目なんですけど、「少子高齢化・人口減少の進展」については、行政への影響が非常に大きく書かれているように、「市民生活全般に多大な影響を及ぼす」ということですが、この辺ももう少し、コミュニティの維持にこんな支障があるというような分析も盛り込んでいただいた方がいいのではないかと思えます。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございます。一番大きな論点は、徳久委員がおっしゃっていたところの横ぐしのところなんですけど、榮野委員のご意見では、行政体の進め方としては15ページの3つであって、「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」については、位置付けが他の3つとは異なるというご意見と伺ったのですが。</p>
榮野委員	<p>市民・NPO・事業者の参画というのは他の3つの項目とは別出しで、上位に位置づけた方がよいのではないかという意見です。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございます。それでは角野委員、お願いします。</p>

角野委員	<p>まず 11 ページの 5 つの基本目標ですが、これはこれでよく分かるんですが、3 つ目の「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」というところで、「文化を育む」っていうのは、なかなか市民にはイメージが湧かないので、イメージが湧くようにした方がいいんだろうなっていうのと、そのあとの「自然と共生し、美しい環境を守るまち」というところの「美しい環境」っていうのは、今ある自然なのか、街なかも含めての環境なのかという、要は、この環境で言うと、今ある環境みたいな感じなんですか。都市部も含めて環境は作っていくものだろうと思いますので、この辺は工夫があってもいいなあと思いました。</p> <p>先ほど、「まちづくりの進め方」のところ、私も横ぐしをさすならば、最初の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」がここにあっているのかということを感じながら悩んでいました。ただし、この本文が、官民一体化というともに進めるまちづくりとなっているんですが、中身を見ると、行政が支援に回るといふ書きぶりになっているように思います。だから誤解を招くのかなと。そうではないと思いますので、若干、工夫した方がいいなあというふうに思います。</p> <p>7 ページの「情報通信技術の発展」のところ、背景のところはこうなんだろうと思いますが、その下の枚方市が抱える主な課題では、上の背景の不安定な危惧というものを若干、入れておくべきではないかと思っていて、行政内部のことで今の時点で書ける範囲のイメージがわからないのですが、そこは気になりました。</p> <p>もうひとつ 13 ページ、「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」のところ「安心して」という表現があるんですが、まちづくりワークショップ報告書の中で「安心して産み育てられるまち」というのは、ぱっと見たら分かりやすいんですけど、安心の意味合いはものすごく幅広いのではないかと思います。例えば、子育て世代から見た場合には、子どもの年齢層がだいぶ広がりますから、イメージとして、この安心の中には、安全ということも、においとして入ってくると思います。学校とか教育に関して言うと、安心とセットで安全というのがものすごく今キーワードになっていて、例えば池田の問題があったり、寝屋川の問題が平成 17 年にあったり、東日本大震災の問題があったり、様々な問題があるんですが、時が過ぎると消え去っていくのが常で、また何か起きると、勃発して学校教育の中に安全という言葉が教育の中に入り始める。先を見越した場合に、安心という、曖昧な言葉で進めてしまいがちになるというのが少し気になっていて、特に子育て世代は安心より安全の方を思っているんじゃないかというふうに思いますので、そこはちょっと気になりました。以上です。</p>
吉川部会長	<p>ということは、13 ページの上の方にある教育の部分にも安全という意味合いを含めた内容を盛り込めということなのではないでしょうか。一方で、12 ページの左側の方に、安全、安心という部分があって、ここに繋がっているものはいわゆる自然災害と犯罪、交通安全などで、ブレイクダウンすると、子どもたちの安全、例えば、池田などの犯罪の問題だったり、あるいは交通事故の問題もあるだろうし、重なるところもある。</p>
角野委員	<p>そうなんです。12 ページで読み取ることもできるんですが、特に子育て世代のとなってくると、教育という匂いがあまりしないような気がします。</p>
吉川部会長	<p>教育という面での安全というと、それは例えば、いじめとかそういう話もあるんでしょうか。</p>
角野委員	<p>幅広いですから、それは全部入ってくると思うんですけど、親は学校に送り出すが無事に帰って来ないなど様々な問題に発展していくので、僕はどっちかっていうと、13 ページの安心というのは、わりと曖昧な安心のようにとられがちなので、今後、工夫するとすれば何かできないかなという気がしました。</p>
吉川部会長	<p>より積極的に、安全というような内容を入れてはどうかということですね。では、嶋田委員お願いします。</p>

嶋田紫織と申します。会議では初めて発言させていただくことになります。最初の自己紹介のときに、簡単に済ませてしまって、チーム名と私の名前だけを言ってしまったので、少しだけ一体どういう人なのかというのを言わないと話に説得性がないかなと思いますので、少しだけお時間いただいて、お話させていただきたいと思います。スターダスト河内っていう盆踊りチームのリーダーをしております、このチームっていうのは、河内音頭っていう盆踊りではすごく有名な音頭があるんですけど、それが枚方が発祥っていう説がありまして、それを次の世代につなげて、盆踊りという文化を守るために作ったのがスターダスト河内です。このチームは小学校6年生の時に同世代の友だちと一緒に作ったチームで、今年で13年、14年目くらいになりますが、今、幼稚園から社会人の主婦さんまで約50名のチームで活動しています。近畿一円の盆踊り会場にお招きいただいて、若い人の人手不足だったり、地元への興味がなくてというので、どんどん潰れていっている層がすごく多くて、そういうのをなくならないように、そのお祭りにお邪魔して、若い人たちを盛り上げていくような活動をしています。チームの説明に関しては、ホームページをご覧くださいたら分かると思うので、割愛させていただきます。そのほか、地元校区コミュニティの広報部として、チームの主要メンバーで広報の役をいただいて活動しているのと、3歳上の兄がいるんですけど、その兄が大学時代に地元で立ち上げた青年会に入会していて、今もそこで活動を続けています。3団体に所属して地元活動に積極的に取り組ませていただいております。

資料3の構想素案についてなんですけれども、具体的な内容に少し入ってしまうのかなと思ったんですけど、考えてきた内容なので少しお話させていただきたいと思います。

4ページの「安全・安心に対する意識の高まり」のところなんですけど、東日本大震災から、テレビでもいろんなところでも言われますけど、自然災害に対する意識が高まっているなというのをすごく感じるんですけど、やっぱり実際、地域の活動とかを色々していると、自治会の加入率が下がっていたり、子ども会に入らない世帯が増えていたり、子ども会自体がなくなっているんじゃないかっていう話があがっていたりするくらい、これだけマンションなんか建ち並ぶ中で、唯一の住民同士のつながりと言えた部分が必要がないと市民が思い始めている点があるということがすごく問題だと思っています。後ろの方に載っているまちづくりワークショップの方たちの意見の中にも、人どうしのつながりとかコミュニケーションというのがすごく問題になっているんですけど、やっぱり市民の間では、東日本大震災でつながりが重要視されているにもかかわらず、自分たちの周りにおいては重要視していないっていうのが目立っているんで、いくらハード面をすごくしっかり整備しても、住民の意識を変えるような施策を取らないと、なかなか思っているように動いていかないのではないかと思います。

それから、震災が起きたりした場合の、ちょっと言い方があやふやなんですけれども、第一次待避所とか第二次避難所とかがあると思うんですけど、私の町なんかは、町で持っている公民館も公園もなく、避難所という避難所がない状態なんです。外で集合してという形なんですけれども、これもあまり徹底されてなくて、結局、それぞれが避難所といえば小学校というのになってしまって、おそらく震災が起きたときは全員がバラバラになってその小学校に向かっていくという形になってしまう。そうなった時に、やっぱり日頃から、住民同士の助け合いとか連携っていうところが色んなところであがっているんで、日頃から自然に集うことができる場所が町内にないっていうのがすごく致命的になってくるんじゃないかと思います。また、こういう公民館とか公園とかを町内に持ち合わせていないという町が枚方市内にどのくらいあるのかなっていうのを、もし何かデータとかがあるのであれば教えていただければ分かるかなと思ったのと、あと具体的に震災、南海トラフなどの巨大地震が起こった時に、どれだけ枚方市が影響を受けて、どういう災害が起こることが予想されるのかっていうのも、市で何かデータを持ち合わせていたら、ご提示いただければ分かりやすいかなと思いました。

それから、5ページの「地方分権の推進と都市間競争の本格化」のところなんですけど、「計画策定の背景」の2つ目で、「観光交流の振興といった地域の特性に応じてブランド化を進めるなど」と各自治体の話をしているのかなと思うんですけど、この後の「枚方

	<p>市が抱える主な課題」のところでは、中核市に移行したというのが大きく取りあげられているなと思います。中核市に移行して、先ほども子育てにおいてどういうところが長所になったり、利点になっていくかっていうのが資料であげられていたんですけども、それがこのブランド化というパンと打ち出せるものなのかなというイメージがあるので、中核市に移行したという点でどの程度、ブランド化というものが図れるのか、どれほどの効力があるものなのかというのを教えていただきたいと思います。それを打ち立てることでどのように他の都市と差別化を図るのか、やったのかやってないのかよく分からないような差別化だったら、やる意味がないと思うので、市として、他にビジョンがあるのであれば、教えていただけたら勉強になるなと思いました。以上です。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございました。今いろいろご質問があった件は、次回にご回答いただけるということでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。避難地となっている自治会館等については、別途確認させていただきます。また、南海トラフの関係でいきますと、大阪府の方で被害想定をしております、そのあたりについても確認してお答えしようと思っております。</p> <p>ブランド化につきましては、本市におきましては「健康医療都市」「教育文化都市」ということを掲げておまして、健康医療では、中核市となり保健所を移管して、これまで大阪府の保健所が進めなければいけなかったことが、枚方市が中心になって取り組めるようになったことが、中核市になったことによる大きな力になっていると考えておりますが、今後のブランド推進の議論の中で、何か示せるものを検討して参りたいと考えております。</p>
吉川部会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>私は個人的には、都市間で競争しないといけないのかなと、あるいは、そんなにブランドをつけないといけないのかなというのは常々片方では思っております。とりまとめる立場なので、あまりそういうことは言えないんですが、ちょっとこの辺は気になることがあります。ありがとうございます。それでは、橋本委員お願いします。</p>
橋本委員	<p>橋本と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。私の方からは全部で5つあります。</p> <p>まず1つ目ですけれども、第4次の総合計画と見比べながら見ていったんですけども、今回、市民、NPO、事業者、行政の4つの名前があがってきているんですが、第4次の時は、市民の中にNPOも組み込まれているような感じのところがあったようでして、私は、「ともに進めるまちづくり」というとき、やはりNPOが鍵を握っているのかなと個人的には思っています。色々調べてみましたら、枚方市は120ほどのNPO団体があるということで、もしかしたら休止されているようなところもあるかもしれないですが、今後も社会情勢に伴って、増えたりしていくこともあるかと思うんですが、NPOが市民とそれから事業者、行政との橋渡しになるのではないかというふうに思っています。ですので、やはりこのNPOをもう少し活用出来るような内容に、もう少しNPOが輝くような内容に変えられないかというふうに個人的には思っています。中身を読んでみますと、字数の関係で市民と事業者だけ書かれて、NPOが消えている箇所もあたりなど、やっぱりそういう所もありましたので、NPOをもう少し活用できるような内容にすることによって、本当に「ともに進めるまちづくり」ということが現実味を帯びてくるのかなというふうに思います。</p> <p>それから2点目ですが、ちょうど2ページ目から順番に背景みたいなことが書かれておまして、「枚方市が抱える主な課題」というところも、まちづくりの方向性とかキーワードそのものはアンダーラインや太字にしておいた方が、そういったエビデンスがあるから基本目標につながっているといった形になるので、もう少しその辺の見やすさも含めて検討した方がいいのではないかと思います。ずっと文章だけが並んでいますので、ぱっと一目で見たときに、こういうことが課題としてあるから、基本的な目標の方にもこうや</p>

	<p>ってつながっていくということが分かるのではないかというふうに思います。</p> <p>それから3つ目は先ほどから何度かあがっている11ページの「めざすまちの姿」というところで、先ほど伊東委員からもお話があったんですが、私も「住みたい」というのはおそらく行政ですとか、市外の方々を主体とした感じなのかなと思います。本来ならば、市民が主体となるとやはり、「住みたい」の方かなと思いますので、「住みたいと感じられる魅力溢れるまち、枚方」みたいな内容にして、おそらく、魅力あふれるようになれば、市民外の方も入居してこられるのではないかと思いますので、根本から変えるなら話は別なんですけど、最小限ということならば「住みたい」を最初に持ってくるのではなくて、「住みたい」を最初に持ってきた方がいいのではないかというふうに思いました。</p> <p>それから4つ目ですが、13ページの「活気があふれ、賑わいのあるまち」というところで、以前、私もこういう計画に関わらせていただくときに、よく見かける表現なんですけど、夜22時頃に枚方市駅をよく通るんですけど、結構、人と人とのトラブルが多くて、タクシーの運転手さんも、ここ1年、2年、暴力のようなトラブルがかなり多いということで、市駅のところ結構怖いですね。今、見えていますところに「市の玄関口・顔となる枚方市駅周辺の再整備」とあって、確かに「活気があふれ、賑わい」はあるんですが、ちょっとそこに暴力が入っているということがありますので、「活気があふれ」はいいけれども、「賑わい」は「人々が集いあえる」など、ちょっと表現を変えてもいいのかなと思いました。ここ2、3ヶ月私が通っただけで2回、3回、そういったトラブルを見ましたので、「賑わいがある」ということも場合によってはマイナスな印象もなくはないかなという、最近そうした出来事を見てからちょっと考え方を変えましたので、そのあたりを伝えさせていただきます。</p> <p>それから最後の15ページなんですけど、それまでは、「まちづくりワークショップでの意見・提案」ということで記載があるんですが、先ほどからもいくつか話がありましたように、やはり15ページが行政主導的な色合いがあるということで、ワークショップでの意見・提案なんかにもこういったものに沿うものがなかったのかなと思うんですが、例えば、事業者サイドですとか、NPOサイドのアンケートからもこういうところに沿うようなものはなかったのかなということがありまして、先ほどからの「ともに進めるまちづくり」ということならば、「まちづくりワークショップ」に加えて、事業者やそういったNPOのアンケートのことも含めながら、それを根拠としてこういうことしていますと言った方が、行政主導と言われにくくも、NPOや事業者からもこういったご意見があったのでという形になるのかなというふうに思いますので、そういったことも添えてみてはいかがかなと思いました。</p> <p>以上、5点です。よろしくをお願いします。</p> <p>吉川部会長　　いくつかご質問があったように思います。特に最後の件は、ワークショップで、こういったご意見はなかったんですか。</p> <p>事務局　　ワークショップでの細かい内容を今すぐに確認するのは難しいんですが、先ほどおっしゃっていただいたように事業者やNPOにアンケートもとらせていただいているので、その中で書けるものはないか、考えていきたいと思います。</p> <p>吉川部会長　　分かりました。はい、それでは富岡委員をお願いします。</p> <p>富岡委員　　富岡です。どうぞよろしくお願ひいたします。上手くまとめてお話し出来るか分からないですけども、ちょっと感想なり、感じたことをお話しさせていただこうと思います。</p> <p>まず最初に、先ほどの審議会で徳久委員からお話があったんですけども、私は榮野委員のご意見と同じでして、それに関連してなんですけれども、みんなで作る、ともに進めるということなんですけれども、これを本当にどこまでやっていくつもりなのか、これを本当にちゃんと市民を巻き込んでやっていくのかどうかというところですね。</p>
--	---

そういう意味では、総合テーマ「住みたい、住み続けたい」というところ、先ほど嶋田委員からも自治会の加入が減ってきたという、実はそういうものに関わるのが煩わしいということで、本当にそういうものを進めていこうと思うと、「住みたい」と思わないようになるかもしれないということですよ。しかし、まちとしてはとても大事なことだと思います。こうやっていくんだということをきちんと出していくということは、今後のまちづくりとしては大事な視点かなというふうに思います。あるいはそのことが他の市との差別化することになっていくだろうと思います。ただそれを市民と共有していけるかどうかという、実際にそれを実現していけるかどうかということが大きな鍵になると思います。

またそのことは、安全・安心とも関わってくると思います。みんなと作るということは、ちゃんと関わるということですよ。関わるということをも市民もちゃんと意識してもらわないと、具体的に本当に関わってもらえるかどうかということが大きな鍵になってくるかだと思います。そういう意味では、安全・安心というのは基本は「見る」「見られる」の関係がきちんとできるかどうか。今、市としては自治会の減少ということで、反対の方向に進んでいっているのかもしれない。そのことを逆に、安全、安心というキーワードがありました。実はそのことが本当に自分たちが安心して、あるいは自分たちの環境を良くしていくことにきちんとつながっていく。それこそ総合テーマのところでは、イメージをさせるような、イメージをしていけるような、共有できるようなイメージをいかに出していけるかというのがあるかなと思います。

そういう意味では、ありきたりなのかもしれませんが、だいぶ逆行しているのかもしれませんが、ヒューマンスケールで人と人の関わりをいかに作っていけるか、そのことを本当に真剣に仕組みとして、ソフトとして作り上げていけるかどうか。市をあげて、全市をあげてNPOを巻き込んで本当に作っていけるのかどうか。そこらへんが大きな鍵なんじゃないかと思いました。

吉川部会長

ある意味で根源的なテーマかなという気がします。例にあげていただいた「見る」「見られる」という関係は、実は私、景観をメインの仕事にしまして、「見る」「見られる」というのはまさに言い得て妙だなというふうに思います。ありがとうございます。

それでは谷本委員、お願いします。

谷本委員

まず11ページの「めざすまちの姿」というところですが、「住みたい、住み続けたい」というのは、私は外部から見て枚方に住みたいと思ってもらえるのは大事じゃないかなと思います。最初の方に書いています人口の減少の問題、8万人が減るということは、今の1/5、5人に1人が減っちゃうということで、これは隣の交野市がまるごと消えるということ。そういう中で、枚方という都市が活気があふれ、賑わいを保ち続けるためには、住む人がいないとなかなかその維持も難しいんじゃないかというふうに強く感じるところです。ですから、「住みたい、住み続けたいと感じられる」どころではなく、「住みたい、住み続けたいと思わせる魅力を十分発揮する」ような言葉を当てはめていただいた方がいいかなと思います。「感じる」どころではなく、もっとそれを強くアピールしていけるような都市になればという思いが非常にあります。

それから、「活気があふれ、賑わいのあるまち」のところ、今の話にもつながるんですが、大きな都市でありながら、たくさんの事業者もあり、企業があるんですけども、あんまり枚方という産業が活発というか、活気があふれているイメージが外から持っていていない部分があるのかなと思います。企業団地がたくさんあったりして、本当は産業を有している都市であるんですけども、イメージとしてはやはり住宅都市であって、働きに来るまちというイメージはあまりないのかなという気がしています。ただ、人口が減っていく中で、いろんな税収の問題もあるでしょうし、人が減って、働き手、労働力が求められるんだしたら、住んでいる近くで働けたらいいなという思いが出てきたりするでしょうし、高齢者が働くにあたってそういう傾向性も高まってくるんじゃないかと思っています。そういう意味でいうと、13ページの産業の説明で、もう少し枚方なりの特色も

	<p>混ぜながら、例えば、医療、大きな病院がたくさんあるという特徴をいかして、医療と産業界の連携をもっと図っていきけるような特徴のある産業を延ばしていくとか、地産地消など、枚方にある特色の産業をもっと前面に打ち出すことで活気が溢れるまちにするなど、どちらかというところの都市でも書かれるような文章になっているような気がしましたので、もうちょっと特徴を出していただけたらいいのかなということをおもいました。私の方からは以上です。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございます。今まで産業という観点はあまりなかったと思いますので、人口減少のカウンターパートという意味では重要な話をいただいたというふうに思いました。それでは、高井委員、お願いします。</p>
高井委員	<p>まちづくりにおいて、NPO を橋本委員からキーワードとして出していただいたんですけども、現在 120 を越える法人数があります。あわせて NPO 活動をされている団体数で言えば、そこはちょっとカウントがしきれないところなんですけれども、300 を越える団体があります。マッチングしようとしている団体、一緒にまちづくりやっていききたいなあという団体はかなりあるんですけども、上手な機会が持てなくて、マッチングに至っていないというのが今、現状じゃないかなと感じております。</p> <p>もう 1 つは、自分たちの活動以外のところと手を組もう、輪を広げていこうというところ、自分たちの活動を進めるために不得意なところに手を出そうという団体がまだまだ少ないような気がしています。NPO 法人の中だけで解決してしまおうとしている団体さんも多いように感じてまして、この中にありますように、市民とか行政との協働という言葉が出てきますけれども、なかなかそこまで至っていないかなというところも感じております。全体的に NPO という言葉が出てきましたので、そういうようなところでは期待をしていただいているんだなあというところを見てたんですけども、現状は、なかなかそういったところも問題点としてあるかなと感じております。</p> <p>もう 1 つ細かいところで言いますと、13 ページの「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」になりますが、例えば、社会や自然を感じる体験学習の機会を増やしていこうというところですが、なかなか学校の授業も確保するのが難しかったり、夏休みを短縮してでも授業をはじめたりという現状がある中で、それにプラスアルファで体験学習の時間の確保であったり、次のページにあります環境教育の推進というところも、なかなかそのあたりに至らないというところが見えてきているだろうというのが素直に感じるところです。このあたりをどう推進していくか、どう文章に盛り込んでいくかが、ひとつキーになるのではないかと感じました。以上です。</p>
吉川部会長	<p>例えば、NPO 活動のネットワークや NPO 活動の拡大などを支えるところが枚方にはあるんですか。</p>
高井委員	<p>私は、ひらかた市民活動支援センターにいまして、「サプリ村野」という施設がありますけれども、枚方の NPO センター的な、中間支援組織としての活動をしています。ただし、120 の法人数があるんですけども、その中でも登録されない団体さんもおられます。というのは中間支援組織の支援が必要でないと感じておられる団体さんですね、自分たちの活動で十分だというようなところで入られていない場合であったりとかってというのが現状としてあります。</p> <p>NPO 活動を越えたネットワークづくりということで、9 月からセンターとしましては、企業さんであったり、事業者さんを巻き込んだ枚方まちづくりプロジェクトっていうのを推進する予定で、市内における社会問題において、NPO だけではなくて、市民さんと組むような形で、それぞれの団体の利点を活かしてマッチングしていくことによって、今までできなかったことができるように変えられるんじゃないかということでプロジェクトをつくりあげて、この秋からスタートするようなことを進めています。</p>

吉川部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>実は、私はどちらかと言うとハード系の人間で、ソフトのお話の取りまとめは大変に思っておりますが、取りまとめながら、副部会長の後閑先生にご意見をいただければと思います。</p>
後閑副部長	<p>皆さんのいろいろなご意見をお聞きして、私も共感する部分がたくさんありました。</p> <p>ひとつありますのが、「めざすまちの姿」について、具体的にどういうふうな共通概念で「住み続けたい」と思うのかということが、今ひとつはっきりしていないのではないのでしょうか。「住み続けたい」と思うのはどういうふうな理想、イメージがあって、だから住み続けたいというふうに思うところがこの中に入ってこない、それぞれの5つのシンボリックな目標をまとめたイメージになっていないと思います。事務局のみなさまがおっしゃっていただきました、“健康”とか“安全”とか“教育”とかのイメージがあって、「住み続けたい」と思うまち。健康医療都市、教育文化都市というイメージもあるそうなんです、めざすまちの姿も、共通する、みんながすとんと落ちるような言葉で表したほうが、だから住み続けたいんだとなるような気がします。ここら辺の言葉の表現というのが、もう少し考えられていくといいのではないかと思います。そういうふうなまちを具体的にみんなでつくっていきましょうよというのがめざすまちの姿なのではないかと思います。</p> <p>さきほど、似たもの同士のまちというので高槻市とか豊中市とかありましたが、そういう都市と非常に似通っている、でもその中で枚方ってどういう特徴があるか、だからそこにみんな住んでほしいと思うし、住み続けてほしいと思うということを出せるような特徴を打ち出せてくれるといいかなと思います。</p> <p>もう1つ、中核市というのは色々な権限が移譲されたからいいのであって、行政としてやはり住民サービスが重要なところなので、そういう処理がダブルで市を通して府が行っていたところが、市が自主的に自立的に行える業務が増えていった、福祉の面だとか保健衛生の面はずいぶん大きいと思います。例えば感染症の問題等で、起きた時に府が主導でやっていたことが、市が主導でやれるようになったというようなことが具体的にイメージできるような文章で説明されるといいと思います。中核市として責任もたくさんになってきたけれども、それなりの良さというものが、市としてどういうことが役割として拡大し、自立に向けた市の姿になっていくのかというのが分かるように記述されていけばと思います。</p>
吉川部会長	<p>今、後閑委員のお話を聞くと、こういうことを考える前提がまず中核市になったことが大きな前提としてあるのではないかとのご提案だと思います。私も、この前、審議会で申しましたように、景観条例がこの4月1日に施行されていまして、それまで大阪府景観条例のもとで大阪府全体にあみがかかっており、かなり緩やかだったのが、これから枚方市独自となると、今まではいくつかの地区だけがあみがかかっていた状況から、新たに条例を決めることで、全域が考えなければいけない指定をしたということですので、後閑委員がおっしゃったように、権限が移譲されたことによって、考えないといけないベースが変わっているということは、基本構想をまとめる大きな前提として考えていかなければいけないという気がいたします。</p> <p>時間がせまっております、なかなか皆さんとフリーディスカッションをする時間がないのですが、後閑委員に最後におまとめいただきました。大きな議論の中では、まず、最初に伊東委員からお話がありましたけれども、一番大きなコンセプトの「めざすまちの姿」について議論がいろいろあったかと思います。「住みたい、住み続けたい」については、私も事務局にはちくりちくりと申し上げたことがございます。最近ネット上では住みたいまちランキングなど、主にマンション業者、不動産業者がやっているランキングだったり、あるいは住みやすいまちランキングなどがあるみたいです。住みやすいまちランキングだと実は関西は非常に少ないという結果が出ていたように思います。そういう意味で、ここも議論をしないといけないということを通達の認識としたいと思います。</p>

	<p>もう 1 点大きなところは、審議会のほうで徳久委員がおっしゃったところの、14 ページの「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」のところで、これが目的なのか目標なのかあるいは手段なのかというお話があり、目的にするかどうかというのはあると思いますが、榮野委員のほうから、残り 3 つとは違う視点ではないかという意見がございまして、ここのところも皆さんのほうでお考えいただければと思います。</p> <p>もう定刻がきてしまいました。どうでしょうか。</p>
事務局	<p>お時間一応 8 時までとはさせていただいておりますけれども。</p>
吉川部会長	<p>みなさんご予定もございますし、8 時までという時間設定もございますので、今日のところは、できればコンサルの方で、このブレーストーミングの種になるところを一度おまとめいただいて、これについて各委員のほうでお考えを再度発酵させていただいて、この次は、もっと突っ込んだ議論をさせていただくということでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、次第の「その他」について、事務局から何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>ご連絡させていただく前に、さきほど、橋本委員のほうから、「効率的な市政運営」について、まちづくりワークショップについて何か意見がなかったのかというご質問がございましたが、ワークショップでも、予算を重点的につける視点であるとか、PDCA サイクルの評価システムの必要性などについてご意見がございました。</p> <p>なお、第 1 部会、第 2 部会、それぞれのご意見について、皆様に共有化を図らせていただいて、次回の審議につなげていただけたらというふうに思っております。</p> <p>本日の資料等につきましてご不明な点、ご意見等ございましたら、恐れ入りますが、9 月 4 日（木）までに、電話、メールなどで、事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、本日の資料につきましては、机の上にそのままにしておいていただければ、委員専用のバインダーに閉じて保管させていただきます。</p> <p>本日の会議録につきましては事務局で案を作成しましたら、各委員にご確認いただき、その結果を部会長と調整させていただき、ホームページで公表していきたいと思っておりますので、よろしく願います。</p> <p>なお、第 2 回の第 2 部会については、10 月 9 日（木）午後 6 時から、このフロアの向かい側の特別会議室で開催させていただく予定になっておりますので、ご出席のほう、よろしく願います。以上でございます。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、これで第 1 回枚方市総合計画審議会第 2 部会を終了したいと思います。</p> <p>本日はどうもお疲れ様でした。</p>